

現代の子どもといじめについての考察 青年期におけるいじめの意識調査

An Examination of Contemporary Children and Bullying: An Opinion Research Study of Young Students about Bullying

(2005年3月31日受理)

平松 芳樹
Yoshiki Hiramatsu

Key words : 現代の子ども, いじめ, 意識調査, 青年期の比較

要 約

現代の子どもを取り巻く環境は、家庭、学校、社会の状況の変化とともに多様化している。先に、中学生を対象に、いじめられた経験、いじめた経験、いじめを見た経験、およびいじめについての考え方で構成した質問紙を作成して、いじめの意識調査を実施したが、本報告では、前回とは別の中学校で実施したデータを加え、さらに、高校生と短大生にも調査の範囲を広げ、青年期におけるいじめの意識の変化を検討した。

1. はじめに

現代の子どもたちを取り巻く環境は複雑化し、多様化してきている。我が国のいじめや不登校の問題の背景には、第二次大戦以後の急速な社会的・経済的発展と教育的成果という表舞台のいわば陰の部分にある問題と指摘される(河合, 1999)が、こうした傾向は今回試みるような意識調査の中からも、読みとれる部分もあると考えられる。筆者が担当する教育相談でも、小学生や中学生の場合にいじめをきっかけにした学校不適応の相談が多い。ここで子どもとは18歳未満をさすが、いじめの問題は小・中学生に限らず高校生さらには大学生の段階にも広がっている可能性がある。そこで、現代の若者が抱くいじめについての意識の変化を調査することとした。

いじめの定義は、圧倒的に強い立場にある者が反撃の余地を持たない弱い立場にある者に対して、ことばや態度や比較的軽度の身体的攻撃によって、主に心理的な苦痛を与える行為(高野, 1986)とされる。教育の現場である学校でも、いじめを苦にした自殺者が出るなど、深刻な問題である。いじめ問題の背景には、加害者を生み

出す現代の家庭・学校・社会の問題が存在する。

先の報告(平松, 2004)では、中学生を協力者として、いじめの意識調査を実施した。調査に協力することを通して、いじめ問題を再認識し、被害者の気持ちを考えた人権意識を高めることの一助になることを期待したのである。中学生の子どもたちの意識調査の結果では、いじめられた経験者は全体の2割程度で、いじめた経験者は3割程度であった。高野ら(1986)の調査時点での8割程度と比較するとかなり少ないと考えられた。しかし、2001年の中学生の意識調査の結果では、自分の周りで今でもいじめがあると考える中学生が6割に上っていた。さらにいじめ問題の所在をいじめる人にあるとするのは4分の1で、7割以上がいじめられる人にも問題があるとしていたこと、さらに、今後いじめがなくなると思うかという質問に対し、7割弱の中学生は「なくならない」と悲観的に考えていることが分かり、今後の取り組むべき課題を示しているものと考えさせられた。

本報告では、前回の調査とは別の中学校で実施して同様の傾向が見られることを確認することとした。

さらに、中学生、高校生と短期大学生の意識を比較し

て、現代の青年期の人たちのいじめについての意識に、
発達的な変化が見られるかどうかを明らかにすることを
目的としている。

で全学生284人（有効回答数）。

(4) 統計的分析

SPSS 10.0J for Windowsにより分析を行った。

2. 方 法

(1) 質問紙による意識調査

中学生を対象にした、いじめに関する意識調査用紙
「いじめに関するアンケート」(2001年版)の一部を修
正して、高校生用と大学生用を作成した。

(2) 実施時期

2003年1月～2月

(3) 調査の回答協力者

- ・岡山県内のB中学校の1年生から3年生まで全校生
徒620人（有効回答数）。
- ・岡山県内のC高校の1年生から3年生まで全校生徒
405人（有効回答数）。
- ・岡山県内のD短期大学E学科の1年生から2年生ま

3. 結 果

アンケートの集計結果は表1の通りである。数字は人
数であり、複数回答は加算して集計した（複数回答がで
きるのは、問5、6、7、8、12、13、14、18、19、20、
22である）。なお学校区分毎に母集団の人数が異なるの
で百分率を併記した。質問には全員回答のものと枝質問
がある。問3～9は問2の枝質問、問11～16は問10の枝
質問、問18～20は問17の枝質問である。

A中学（286人）が前回報告のもので、B中学が今回
追加した資料である。

質問項目の中で修正したのは、問3、7、20、22の一
部である。

表1 学校区分別回答項目一覧表

アンケート項目	学校区分 回答項目	A中学 286人		B中学 620人		C高校 405人		D短大 284人	
		人	%	人	%	人	%	人	%
問1 (全員) 性別	男	137	48%	299	48%	138	34%	31	11%
	女	149	52%	321	52%	267	66%	253	89%
問2 (全員) いじめられた経験	あ る	63	22%	172	29%	142	37%	94	35%
	な い	223	78%	421	71%	242	63%	178	65%
問3 いつ頃か	小 学 校	41	60%	108	73%	87	51%	57	52%
	中 学 校	27	40%	39	27%	59	35%	40	36%
	高 校					23	14%	11	10%
	大 学							2	2%
問4 個人か複数	個 人	18	30%	52	32%	37	28%	24	27%
	複 数	43	70%	110	68%	95	72%	66	73%
問5 誰かに相談	親	17	23%	60	26%	45	24%	29	23%
	友 人	11	15%	49	21%	48	25%	35	28%
	先 生	18	25%	52	22%	37	19%	18	15%
	誰にも言わず	25	34%	53	23%	41	22%	29	23%
	そ の 他	2	3%	19	8%	19	10%	13	10%
問6 どないじめをされたか	無視	26	27%	78	27%	44	31%	56	35%
	言 葉	40	41%	107	37%	62	44%	63	39%
	暴 力	8	8%	36	12%	14	10%	8	5%
	持ち物隠し	5	5%	26	9%	10	7%	10	6%
	買わされる	1	1%	1	0%	1	1%	4	2%
	金を取られる	1	1%	6	2%	0	0%	1	1%
	したくないこと	12	12%	23	8%	6	4%	10	6%
	そ の 他	5	5%	14	5%	5	4%	10	6%

現代の子どもといじめについての考察

アンケート項目	回答項目	学校区分			
		A中学 286人	B中学 620人	C高校 405人	D短大 284人
		人 %	人 %	人 %	人 %
問7 いじめを受けどう思ったか	仕方ない		28 14%	13 9%	9 9%
	何とも思わない		20 10%	22 16%	7 7%
	自殺を考えた	22 35%	24 12%	21 15%	13 12%
	復讐を考えた		69 35%	35 25%	20 19%
	その他	41 65%	54 28%	48 35%	56 53%
問8 いじめのきっかけは	服装	0 0%	6 3%	5 3%	4 4%
	持ち物	3 4%	10 5%	3 2%	6 6%
	顔やスタイル	8 12%	36 19%	18 12%	7 6%
	部活	3 4%	8 4%	7 5%	6 6%
	家のこと	1 1%	5 3%	5 3%	3 3%
	男(女)だから	0 0%	2 1%	3 2%	1 1%
	不明	40 60%	80 43%	66 45%	45 42%
	その他	12 21%	40 26%	39 35%	36 48%
問9 いじめは今も	続いている	5 8%	17 10%	10 7%	1 1%
	ない	56 92%	153 90%	128 93%	94 99%
問10(全員) いじめたことは	ある	93 33%	198 33%	116 30%	86 31%
	ない	193 67%	409 67%	275 70%	188 69%
問11 何人でいじめたか	一人	9 10%	37 19%	17 15%	10 11%
	複数	84 90%	160 81%	97 85%	79 89%
問12 なぜいじめたか	むかついたから	40 39%	89 36%	48 36%	32 28%
	嫌いだから	27 26%	67 27%	29 21%	28 25%
	何となく	19 18%	51 21%	34 25%	32 28%
	その他	17 17%	38 16%	24 18%	22 19%
問13 どんないじめをしたか	無視	54 41%	115 36%	27 40%	64 47%
	言葉	41 31%	113 35%	17 25%	34 25%
	暴力	14 11%	36 11%	4 6%	9 7%
	持ち物隠し	6 5%	14 4%	5 7%	9 7%
	物を買わす	4 3%	3 1%	0 0%	4 3%
	金を取る	3 2%	5 2%	1 1%	2 1%
	したくないこと	9 7%	20 6%	2 3%	8 6%
	その他	1 1%	14 5%	11 20%	5 4%
問14 いじている時のあなたの気持ち	スカッとする	11 11%	30 12%	19 13%	13 11%
	楽しい	9 9%	31 12%	15 10%	12 10%
	面白い	7 7%	39 15%	25 17%	11 10%
	かわいそう	12 12%	27 11%	12 8%	21 18%
	止めたい	10 10%	25 10%	9 6%	21 18%
	何も感じない	47 47%	80 31%	57 38%	29 25%
	その他	5 5%	23 9%	14 9%	8 7%
問15 いじめられる人の気持ちを考えたか	考えた	32 35%	80 40%	54 46%	45 51%
	少し考えた	42 46%	93 46%	49 42%	29 33%
	考えない	17 19%	29 14%	14 12%	14 16%
問16 今もいじめをするか	よくある	0 0%	8 4%	6 5%	2 2%
	時にある	17 18%	50 25%	12 10%	4 5%
	ない	75 82%	141 71%	99 85%	82 93%
問17(全員) いじめを見たことは	ある	170 59%	327 55%	243 62%	180 66%
	ない	116 41%	271 45%	147 38%	92 34%
問18 その時あなたはどうしたか	気の毒だが何もしない	110 61%	181 42%	130 42%	97 39%
	止めに入った	10 6%	40 9%	32 10%	22 9%
	相手に抗議した	4 2%	21 5%	14 5%	12 5%
	その場から離れた	25 14%	69 16%	44 14%	25 10%
	加わった	7 4%	25 6%	15 5%	7 3%
	誰かに話した	20 11%	68 16%	40 13%	57 23%
	その他	4 2%	28 6%	31 10%	26 11%

アンケート項目	回答項目	学校区分							
		A中学 286人		B中学 620人		C高校 405人		D短大 284人	
		人	%	人	%	人	%	人	%
問19 その時のいじめはどんなものか	無視	60	24%	128	21%	104	25%	98	28%
	言葉	87	35%	220	36%	141	34%	116	34%
	暴力	50	20%	114	19%	71	17%	43	13%
	持ち物隠し	17	7%	67	11%	41	10%	38	11%
	物を買わず	4	2%	8	1%	9	2%	10	3%
	金を取る	7	3%	18	3%	9	2%	7	2%
	したくないこと	18	7%	44	7%	31	7%	24	7%
	その他	4	2%	12	2%	14	3%	8	2%
問20 その時あなたはどう感じたか	卑怯だ			55	12%	62	18%	56	18%
	かわいそう	90	47%	159	34%	123	35%	116	37%
	止めさせた	31	16%	63	13%	50	14%	55	18%
	面白い	7	4%	20	4%	12	3%	5	2%
	巻き込まれたくない	32	17%	98	21%	47	13%	50	16%
	いじめられても仕方ない	32	17%	50	11%	32	9%	18	6%
	その他	0	0%	27	6%	27	8%	14	4%
問21 (全員) 周りにいじめは	ある	168	60%	381	63%	205	54%	90	33%
	ない	111	40%	220	37%	176	46%	186	67%
問22 (全員) いじめについてどう思うか	卑怯だ			198	25%	139	28%	158	36%
	悪いことだ	201	71%	392	49%	217	44%	185	42%
	いつでもどこでもある	61	22%	158	20%	93	19%	81	18%
	自分には関係ない	15	5%	47	6%	34	7%	14	3%
	その他	6	2%	6	1%	8	2%	1	0%
問23 (全員) どちらに問題があると思うか	いじめる人	73	26%	199	33%	102	27%	82	30%
	いじめられる人	24	9%	43	7%	15	4%	9	3%
	両方の人	180	65%	363	60%	257	69%	184	67%
問24 (全員) なくなると思うか	思う	75	28%	151	25%	65	17%	34	13%
	思わない	193	72%	444	75%	313	83%	230	87%

4. 考察

1. 前回調査と今回調査の中学生

まず、前回（2001年）と今回（2003年）調査の中学生の意識全体について比較をしてみたところ、ほぼ同様の傾向が見られた。

2つの中学校間で、有意差が見られたのは、問2での「いじめられた経験がある」と答えた人の割合が今回の方で多い（ $\chi^2=4.795$, $p<.05^*$ ）ことと、枝質問18でいじめを見たことのある人に、その時どうしたかとの質問に答えた割合（ $\chi^2=11.903$, $p<.01^{**}$ ）に違いが見られただけで、それ以外には差がなかった。すなわち、B中学の方にいじめられた経験者が多く、いじめを見たときの行動に差がある以外には、いじめの意識にそれ程の差はないといえる。そこで、以下では、中学校のデータは今回（2003）の620人のものを取り上げ、高校生、短大生と比較検討する。

なお、以後は、カイ2乗検定の有意差で $p<.01$ を省略

して**で示し、 $p<.05$ についても省略して*のみで示す。

2. 青年期におけるいじめ意識の比較

(1) いじめられた経験

いじめられたことがある人は、どの学校区分でも3割程度ある。中学で比較的少なく、高校と短大で多い結果（ $\chi^2=7.304^{**}$ ）になっている。そして、いじめられた時期では、中学生の7割が小学生の頃と答え、高校生、短大生では小学校でのいじめが半数で中学での比率が3割を超えるようになる。高校では1割と少なく、短大では皆無に近い。この意識調査では、自分の経験したことを問うものであり、小学校での経験を回答する数が多いことは、中学生の回答者の3分の1は1年生であることからしても当然であろう。いじめの発生件数について、詫摩（1995）の調査では、小学校と中学校で多く高校でずっと減少するとされていることと一致している。さら

に、いじめの内容では、個人的ないじめは少なく、7割は集団でいじめられている。相談相手には親や友人、先生がほぼ同じ割合で選ばれていて、誰にも相談しなかった人も2割以上いることが分かった。これらに学校区分による差は見られなかった。いじめの種類では、無視と言葉でのいやがらせという、心理的手段が7割程度と多いことが分かる（有意差はない）。いじめのきっかけは、どの学校段階でも「不明」が4割を超えて最も多く、顔やスタイルと思う人の割合が中学で多く、高校、短大と年齢段階が進む程減少している（ $\chi^2=6.573^*$ ）。いじめは今も続いているかとの質問には、中学、高校で1割程度続いていると答えるが、短大では1人が「ある」と答えたのみで、いじめはほぼなくなる（ $\chi^2=7.575^*$ ）と考えられる。

（2） いじめた経験

自分がいじめた経験の有無を問うと、学校区分による差は認められなくて、3分の2は「ない」と答えるが、3分の1は「ある」と答えた。

そのいじめた内容についての質問では、8～9割は単独ではなく複数でいじめる（有意差なし）のであり、無視と言葉でのいやがらせがほとんどであり、年齢段階が大きくなるほどに、無視が増え、言葉によるいやがらせが減る傾向（ $\chi^2=9.503^*$ ）がある。さらに、いじめているときの気持ちでは、中学生と高校生で、「スカッとす、楽しい、おもしろい」という自己中心的な気持ちと、「何とも感じない」という答えが多く、短大生では「かわいそう、止めたい」という気持ちを持つ人が4割近くに増えて、学校区分間には有意な差がある（ $\chi^2=19.223^{**}$ ）。すなわち、年齢段階が上がるほど自己中心的でなく、同情的になるといえる。さらに、いじめたことのある人に、今でもいじめをすることがあるかと尋ねると、中学生では「よくある」と「時にある」を合わせて3割もある。高校で1.5割と半減し、短大で1割未満となり、この傾向は統計的に有意な差（ $\chi^2=24.899^{**}$ ）がある。

（3） いじめを見た経験

次に、全員への質問で、いじめを見たことがあるかを問うと、中学生で過半数が見たことがあると答え、高校

生と短大生で6割を超えて増える（ $\chi^2=12.069^{**}$ ）。そのいじめについてどう思うかの問には、どの年齢段階でも7割以上が「卑怯なこと」「悪いこと」と答えるが、この傾向に有意差は見られない。

（4） いじめについての考え方

全員に対しての「いじめは、いじめる人といじめられる人のどちらに問題があるか」との質問に、どの年齢段階でも3割程度がいじめる人と答える。いじめられる人に問題があるとするものはわずかであるが、両方に問題があるとする答えが6～7割と多い。中学生と高校生の間で比較すると両方に問題があるとするものが有意に増えている（ $\chi^2=8.888^*$ ）。高校生と短大生の間では有意差がない。他人を思いやる心や人権を守ることの大切さを、幼い頃から身につけて、成長とともに豊かな人間性が育まれてゆくことが期待されるのであるが、残念ながら現代の若者たちの意識には充分育っていないと考えられる。

最後の質問「いじめはなくなると思うか」に、どの年齢段階でも、なくなると思う方が少数でなくなると思う方が多数である。しかも年齢が進む程、なくなると思うが減り、思わないが増えている（ $\chi^2=20.784^{**}$ ）のである。このことも現代の若者たちにとって、年齢段階が進むにつれて、自分たちを取り巻く環境を悲観的に感じるようになり、人間不信感を抱きやすくしている風潮の現れと考えられる。現在の教育や社会の抱える問題をこのような形で表現しているのかもしれない。

5. おわりに

現代の子どものいじめに関する意識調査を実施した。2001年に中学生286人を対象に、いじめられた経験、いじめた経験、いじめを見た経験、およびいじめについての考え方で構成したアンケート調査を実施した。2003年に前回とは別の中学生に同様のアンケート調査を試みた。この2つの異なる中学生で2年の間隔を空けた調査では、全体的にほとんど差が見られなかった。そこで、高校生および短大生に同じアンケートを実施して、青年期の意識に変化は見られるのかどうかを検討することとした。

その結果、いじめられた経験は、小学校時代と中学校

時代で多く、高校では1割程度と少なくなり、短大ではほぼ皆無となることが分かった。いじめの種類は無視と言葉によるいやがらせがほとんどである。

自分がいじめたことがあるかの問い、どの年齢段階でも、3分の1の人が「ある」と答え、無視と言葉でのいやがらせを数人ですするといういじめの風潮のひろがりを感じさせる。しかし、いじめは今も続いているかという質問で、年齢が進むにしたがい急減しているところは救われる。自己中心的な発想で行動する人が減り、相手の気持ちを考えるように発達している。

しかし、今後の課題として取り組む必要性を示す結果がある。それはいじめについての考え方において、多くは、いじめは卑怯なこと、悪いことであるとしながらも、いじめの責任がいじめる人だけでなく、いじめられる人にも問題があるとする答えが、7割程度もあるという点である。前回の中学生に見られた傾向が高校生、短大生にも広く存在する考え方なのである。もう1点は、今後いじめはなくなるかという質問に対し、前回の中学生の時と同様、「なくなると思う」という答えは少数派であり、「いじめはなくなると思わない」が多数を占めることであり、さらに年齢段階とともに一層この傾向が強まるところが、深刻で、大きな課題を抱えていると感じられる。

最後になりましたが、アンケートに協力して頂いた皆様と、集計に協力して下さった学生の皆様に深く感謝申し上げます。

参 考 文 献

- 1) 河合隼雄：いじめと不登校，潮出版社，1999.
- 2) 平松芳樹：いじめの意識調査による教育心理学的取り組み—中学生の場合—，中国学園紀要 第3号，2004，PP.53—58.
- 3) 高野清純（編）：いじめのメカニズム，教育出版，1986.
- 4) 詫摩武俊：いじめ，サイエンス社，1995.